

令和6年度 施政方針 (要旨)



全文はこちら



「個性が輝き心豊かな人を育むまち」

はじめに

元日に発生した能登半島地震では、幾重にも重なる過酷な状況下で、多くの尊い命が奪われました。亡くなられた方に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。要請を受け、本市の職員も救助活動や応急給水活動などに従事しました。一日も早く日常を取り戻せるよう引き続き支援を行います。

昨年はスポーツ界で日本人や日本代表の活躍が目立ちました。特に大谷翔平選手の活躍や岩倉市出身の長谷川帝勝^{たが}さんのスノーボードワールドカップでの優勝など、明るいニュースもありました。新型コロナウイルス感染症が5類に見直され、日常生活が戻り始めていますが、世界の不安定な情勢や物価高騰など、先行きは不透明です。引き続き、必要な施策を実施してまいります。

【予算の概要】

令和6年度一般会計予算案は176億5千万円で、前年度比4.1%増で過去最大となりました。要因は、石仏公園と五条川小学校区統合保育園の整備事業に係る経費の増加、社会保障費の増加、国の人事院勧告に準じた給与改定や県の最低賃金の改定による人件費の増加などです。歳入は、慎重かつ適切に見積もったうえで計上し、臨時的経費への対応として、財政調整基金から2億5千万円、教育環境整備基金から2千万円の繰入れを行います。特別会計は3.9%増、企業会計は2.2%増で、一般会計、特別会計及び企業会計の全体では2.1%増となりました。

「健やかでいつまでも安心して暮らせるまち」

健康づくりにおいては、第3次健康いわくら21を策定し、市民の健康増進につながる取組を推進します。様々な分野で健康の視点を持って活動している個人、地域団体等を健康づくりサポーターとして登録し、健康づくり活動の企画・運営、健康情報の発信に協働により取り組みます。また、がん検診の自己負担額を引き下げて受診しやすい環境を目指します。

地域福祉では、孤独・孤立対策としてひきこもり支援を目的としたサロンの運営などを行うとともに、地域共生社会の実現を目指して、重層的支援体制を整えます。障がい者・障がい児福祉では、市内の児童発達支援センターに児童発達支援相談業務を委託し、支援の機能強化や包括的な支援体制の構築を図ります。

「個性が輝き心豊かな人を育むまち」

五条川小学校区統合保育園は、遺跡発掘調査のために計画を延伸し、令和9年度開園に向けて事業の進捗を図ります。曾野小学校の放課後児童クラブ施設を令和6年4月に開設し、子ども達が安全に過ごせるよう努めます。保護者や児童生徒に寄り添い問題解決に当たるスクールソーシャルワーカーを増員し、支援を充実させます。近年の猛暑を受け、安全安心な教育環境の整備、利用者の熱中症対策及び避難所としての機能の向上を図るため、全小中学校の屋内運動場に都市ガスを用いた空調設備を設置します。令和7年度設置工事に向け、令和6年度は設計業務を行います。

「地域とともにある学校づくり」に向け、コミュニティ・スクールの導入を進めます。また、学校と地域の連携を強化するため地域連携コーディネーターを配置します。部活動の地域連携・地域移行に向け、部活動指導員の配置と部活動サポーターの増員で望ましい部活動環境を整備します。文化財の保護・継承のため、大上市場と下本町の山車の修繕費用への支援を行います。

「利便性が高く魅力的で活力あふれるまち」

歩行者の安全を確保するため岩倉駅西第2自転車駐車を廃止し、旭跨線橋下西自転車駐車場に新たに自転車ラックを設置します。名神高速道路スマートインターチェンジの準備段階調査は不採択となりましたが、一宮市と連携して再度検討を進めます。橋梁長寿命化修繕計画に基づき、大市場橋や新矢戸橋の改修工事はじめ橋梁の適切な維持管理を行います。また、交通事故防止や自転車利用推進のため、自転車活用推進計画や自転車ネットワーク計画の策定に着手します。都市計画道路桜通線の整備、上水道の基幹管路耐震化、公共下水道の整備なども継続して実施します。

本市のブランド野菜「ちっチャイ菜」の加工品の開発・製造、商工会、金融機関等と連携した中小企業・小規模企業の伴走型支援も引き続き実施します。5年ぶりに開催する岩倉桜まつりは、賑わいや桜並木の魅力を保ちつつ、近隣の生活環境への配慮や桜並木保全の観点から、内容を見直して実施します。

「環境にやさしいうるおいあふれる安全なまち」

本市の貴重な観光資源であり、市民の誇りでもある五条川の桜並木を、岩倉五条川桜並木保存会との協働により、適切に維持管理していきます。石仏公園は、令和6年度からの2年間で、スポーツ施設としての機能と災害時の利用性を兼ね備えた多目的なレクリエーションの場となるよう整備工事を行います。環境美化、ごみ減量、資源化の啓発のため、新たなクリーンアッププロジェクト「スポGOMI」を開催します。

また、災害対応特殊救急自動車を買替え、救急の高度化と増加傾向が続く救急需要に対応します。引き続き防犯灯と安全安心カメラの設置を進め、安全で安心な生活環境づくりに取り組んでいきます。



▲石仏公園完成予定鳥瞰図

「協働と自治による持続可能なまち」

本市の外国籍市民は人口の約6.6%を占めており、初期日本語教室の開催などにより、多文化共生の取組を進めていきます。また、行政サービスの利便性向上のため、マイナンバーカードを使用してコンビニで取得できる証明書の追加や公共施設予約システムの更新、キャッシュレス決済の導入に取り組みます。

さらに、小中学校や市役所などの公共施設の計画的改修を行うとともに、青少年宿泊研修施設希望の家の譲渡をはじめ公共施設再配置計画を進めていきます。

「マニフェスト重点施策」

市長として2期目の最後の年となる令和6年度は、三つの重点施策をさらに強く推し進めます。

第一に「持続性の高い魅力ある地域づくり」で、地域課題の解決と行政区の負担軽減を目指して、令和4・5年度の「未来寄合」に続き、モデル地区でのアンケート調査やワークショップを実施します。また、自治会専用アプリの導入による行政区のデジタル化を支援します。

第二に「地球温暖化防止対策」で、市民と連携した「ゼロカーボンチャレンジ事業」の実施、事業者と連携した「いわくろゼロカーボン事業者認証制度」の導入のほか、事業者との懇話会の開催や友好交流都市大野市での環境学習ツアーを行います。また、公共施設のLED照明への更新を行います。

第三に「生まれる前からの切れ目のない子育て家庭支援」で、これまで実施してきた取組に、低所得世帯の妊婦への初回の産科受診料助成、インフルエンザの予防接種費用の助成、育児サポーター派遣事業の拡充、通所型の産後ケア事業の実施、第3子以降学校給食費無償事業の要件の拡大などの新たな取組を加え、「岩倉市子どもまんなかアクション」として展開します。これに合わせ、本市も「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター」となって、子どもたちの未来を応援していくことを宣言します。

「結び」

ほかにも、取り組むべき行政課題は多々ありますが、市民の皆様の声に耳を傾けながら、職員と一丸となって課題解決に取り組んでまいります。